

総合工学委員会・機械工学委員会合同
計算科学シミュレーションと工学設計分科会小委員会の設置について

分科会等名：計算音響学小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○総合工学委員会 機械工学委員会
2	委員の構成	25名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>音響学は、音の発生、音の伝播、聴覚器官による音響感覚、音楽、騒音等、音に関するあらゆる現象を扱う学問である。その領域は物理学・工学・心理学・生理学など多くの分野にわたりまさに総合科学の一つである。</p> <p>のことから、第23期に計算音響学小委員会が設けられ、それ以来スーパーコンピュータを用いたコンサートホールの音響シミュレーション、楽器の発音機構のモデリングとシミュレーションと実験、作曲などについて上述の多分野からなる研究者の間で話題提供と討議がなされた。</p> <p>現在、多様な要求に迅速に対応して製品開発を行うためには、バーチャル・シミュレーションを駆使したモデルベース開発(MBD)が欠かせない。また、製品開発においては、人間に与える心理的・生理的な影響も考慮した「人間中心設計」が求められる。</p> <p>第26期においては今までの議論をさらに深め、上記実現のために音響を軸とした新しい学問分野の形成と発展を目指す。</p> <p>以上、本小委員会を継続し、意思の表出の発出を行う等、音響を核としたシミュレーション技術の新たな展開へと繋げていく。</p>
4	審議事項	1. 計算音響学についての意思の表出の発出 2. 意思の表出の実現に向け、計算音響学についての深堀 3. 新学問分野醸成のための異分野間の交流と意見聴取に係る審議にすること
5	設置期間	令和6年5月31日～令和8年9月30日
6	備考	第25期には、6回の委員会活動に加え、未来の学術振興構想、公開シンポジウム、記録の公表等、活発に活動を行った。

	<p>本小委員会で扱う内容は、計算音響学を核として、理工学のみならず社会科学や心理学といった学際領域を形成しており、委員会において多様な議論を重ねた上で、学術振興構想を提案し、さらに公開シンポジウム「計算音響学の目指すもの」を実施した。</p> <p>これらの議論の成果と活動をまとめた意味で、記録「音響を核とするバーチャルシミュレーションシステムの開発に向け」を発出するに至った。</p> <p>第 26 期では、さらに音響学を核とする学際領域の議論を進めため、感覚や感情、音声分析等の分野の新たな委員を加えさらに多角的な議論を進める予定である。</p>
--	--